

Think globally, Act locally

こうちょう かねこ まさと
校長 金子 正人

横浜市では毎年「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」を実施し、国際平和について考える機会をもっています。今年「SDGs」がテーマです。全市の小中学生が校内スピーチコンテストに参加し、学校代表となった子どもが区のスピーチコンテストに進みます。最終的には区代表が参加して市の代表選考が行われ最優秀賞に選ばれた児童生徒がニューヨークの国連本部を表敬訪問しています。（昨年度はコロナ禍で訪問は中止されています。）

本校でも5月から6月にかけて6年生の全児童が「SDGs」について学び17のゴールから題材を選び意見文を書きました。クラスで代表を決めるスピーチを行い、学校代表を決める本選会を実施しました。子どもたちのスピーチを聞きましたが、熱のこもったスピーチで甲乙つけがたい内容でした。環境問題や人権問題、貧困や紛争について様々な資料や本で調べ、自分の体験と関連付けてとてもよい作文が書けていました。

世界のどこかで起きている問題を自分たちの問題として捉える視点はとても大切です。多くの子どもたちが環境問題に目を向け、世界の環境問題を解決するためにできることとして、プラスチックごみの削減、クリーンエネルギーの利用、衣料品のリサイクル、食品ロスの削減などを考えていました。どれも大切な取組です。これを機会にスーパーやコンビニで買い物をするときにMYバッグを持って行ったり、要らなくなった洋服をリサイクルに回したり、食べ物の無駄を省いたりすることに取り組んでほしいと思います。

6年生のあるクラスはスピーチコンテストをきっかけに学校周辺のごみ拾いを始めました。「スピーチコンテストで考えたことを実践して、身近な環境問題をよい方向に変えていきたい」という発案です。素敵な取組です。トングを使ったごみ拾いは朝の10分程度のことですが、色々なごみが拾えます。学校周辺はカラスも多いので、全てがポイ捨てではないのですが、それでもたばこの吸い殻やコーヒー缶、コンビニのプラ容器など、カラスが散らかしたとは思えないものがたくさん落ちています。また6組の子どもたちは、給食の野菜くず（ニンジンの皮や葉物の芯など）を細かく砕いてたい肥を作り、野菜畑の土に混ぜています。このように子どもたちは身近なゴミを通して環境問題と向き合っています。

「Think globally, Act locally (シンク・グローバリー、アクト・ローカリー) =地球規模で考えて、身近なところで行動しよう」という言葉があります。遠い国の問題であっても自分事として考え、できることから始めていくことが大切です。

スピーチコンテストをきっかけにして持続可能な世界のつくり手として小さな一歩を踏み出してもらえればと思います。

SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) は、「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられました。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されています。（「持続可能な開発目標 (SDGs) と日本の取組」外務省パンフレット）